

挑む

高校生活の集大成である、「国家試験」・「センター試験」に臨んだ受験生。目標に向かって、仲間とともに、懸命に「挑む」姿を追いました。

■第108回看護師国家試験

2月14日、全看護学科生が見守る中、看護師国家試験の出発式が行われました。



「長いようで短い」とい
う言葉が良く合うと感じた
この五年間の学校生活も、
もう終わりを迎えようとし
ています。
「観察眼を養いたい」そう
思うようになった私が一番
見てきたのは十三期生の皆
さんの姿です。これまで皆
さんにはきつい言葉をかけ
ました。悔しくて涙を流し
て訴えかけたこともありま
した。

「叶うと信じる心から夢は始まる」

十三期生代表 切江 静香

私の放った言葉に傷つい
た人もいると思います。同
じ方向を向いているはずな
のに意見の食い違いから
「やるせない」、そう思う
気持ちもたくさんありまし
た。でもそれ以上にニコニ
コと「インブット・アウト
ブットしよう」と話す皆さ
んの姿や支え合っている姿
に有り難さを感じるのと同
時に、目に見えて分かる皆
さんの意識や表情の変化を
見るのが楽しみで仕方あり
ませんでした。

今まで皆さんを見てきた
からこそわかります。私た
ちはもうあの十三期生では
ありません。よく先生方が
言ってくださいますよね。
言葉です。叶うと信じる心
から夢は始まります。もう
私たちの夢はすでにあの五
年前から始まっています。
十三期生一九二名、いいえ
鳳凰高校全受験生が感謝の
思いを胸に第一〇八回看護
師国家試験、絶対合格で
す。私たちなら大丈夫で
す。できます。平成最後の
国家試験、新たな歴史を私
たちが作りましょう。
先生方、後輩のみなさん
私たち十三期生合格してき
ます。」

■第31回介護福祉士国家試験

平成元年にスタートした介護福祉士国家試験。平成最後の試験となる今年度の試験は1月24日に行われ、総合福祉科3年生18名が受験しました。

3年間コツコツと頑張ってきたクラス唯一の寮生、佐藤公瑠美さんに、試験後、思いを聞きました。「国試対策では、多くのプリントに不安が増すばかりでしたが、先生方の熱心なご指導や友人との教え合いで乗り切れたと思います。試験当日は緊張しましたが、これまでのことを信じてやり遂げられたと感じています。1、2年生のみなさんには日々の授業を大切にしてもらいたいです。」無事試験を乗りこえた後の笑顔が印象的でした。

■大学入試センター試験出発式

1月17日武道館で大学入試センター試験の出発式が行われました。3年生を代表して3年8組の川野零旺くんが「受験は団体戦。3年生全員で試験に挑んでいきます。」と力強く決意を述べてくれました。

また、1・2年生の代表として2年8組の松山葵くんが「桜が冬の寒さに耐えてきれいな花を咲かせるように、3年生の桜も必ず花開くと信じています！」とエールを送りました。

センター試験は2日間かけて行われ、その結果から個別学力検査の出願先を最終決定していきます。



▲総合福祉科
2年生の手作り
お守り



▲決意表明する川野くん

▲受験を終えてほっとした表情の総合福祉科のみなさん

旅立つ前に、地域のためにできること

就職や進学を考えるときに、地域という視点は外せません。高校生の力で、地域のために何かできることはないか。そう考えて活動した3年生の取り組みを紹介します。

かごしま政策アイデアコンテストに挑戦

かごしま政策アイデアコンテストに3年10組の生徒が応募し、見事一次審査を通過。1月下旬に県庁でプレゼンテーションを行ってきました。南さつま市の「砂の祭典」を高校生の力で盛り上げるために、姉妹都市札幌市の「さっぽろ雪まつり」とコラボレーションし、特産品を使った料理やコラボグッズを高校生の視点から提案してはどうだろうかという内容でした。発表した名越くんは「南さつま市の魅力を再認識できました。南さつま市の魅力をより多くの人に知ってもらうためにはどのようなことが必要か考える良い機会となりました。」と話してくれました。

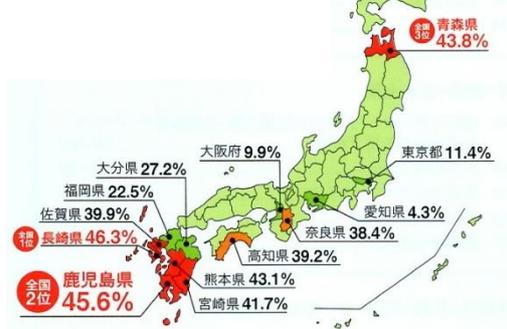
鹿児島県の県外就職割合は、全国2位。鹿児島を離れ、進学・就職を機に県外へと出て行く人も多くいます。県外に出てみて初めて気づく鹿児島の良さもあるかもしれません。

どこへ旅立っても、鹿児島に、自分の学び育った地域に、目を向け続けて欲しいと思います。



◀コンテストに参加した3年10組のみなさん

新規高卒者の県外就職割合 【平成30年3月】



そこで、私たちは、今あるイベントを活用したPR方法強化を提案します！！

もっと！！

～砂の祭典を高校生が中心となって盛り上げる～



▲3年10組のみなさんが発表したスライド

3年生の想いを引き継ぐ後輩たち

「フリーペーパー『M'マガ』事業」

メディカルシステム科が学科をあげて取材・編集・構成を行い発行するフリーペーパー、「M'マガ」。地域の魅力を生徒自ら取材・発信する「M'マガ」は地域の方々からも好評です。



最新号は福岡や東京で頑張る先輩たちに取材を行うなど、さらに読み応えのある内容になっています。

鳳凰高校の魅力を伝える入門書として新入生に届けられることでしょう。

◀最新号の表紙

「カボチャ商品加工事業」

メディカルシステム科と総合福祉科の3年生が苗の植え付けを行い、1年生が育成・収穫しました。収穫後のかぼちゃを使い、メディカルシステム科の1・2年生がお菓子を商品化。市役所マルシェや文化祭などで販売し、南さつま市の特産品である「加世田のかぼちゃ」を、広くPRすることに一役買っています。



◀かぼちゃのマドレーヌ

「サイクリングPR事業」

普通科3年生から始まった事業。台湾で行ったPR事業を2年生に引き継ぎ、今年度は南さつま市の魅力を盛り込んだマップを作成。「高校生の力で南さつま市を盛り上げよう！」と各種イベントにも企画・運営スタッフとして参加しています。



◀マップ作成のため市内のケーキ屋さんを取材する2年生

編集後記

卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。進路指導部では、進路通信を通じてみなさんに必要な情報や、みなさんの頑張る姿・卒業生の生き生きと活躍する姿をお伝えしてきました。毎号読んでくれるみなさんの顔を浮かべながら、そのときに必要な情報を届けてきたつもりです。

「これまでが、これからを決めるのではない。これからが、これまでを決めるのだ。」

(仏教思想家 藤代聡磨)

この言葉を卒業するみなさんに贈ります。普通は「これまで(どう取り組んできたか)がこれからを決める」、と考えます。しかし、「これからがこれまでを決める」、つまり「これまでをどう生きるかがこれまでを決める」のです。

たとえば、テストの結果がよくなかったとき、「問題が難しかったから」「時間が足りなかったから」と私たちは愚痴をこぼしがちです。ですが、「次は早くから取り組むようにしよう」と考え実行に移すと、一つの失敗を踏み台にしてステップアップすることもできます。

つまり「これからどう生きていくか」によって、これまでの失敗も、無駄ではなく有意義なものとなる。うまくいかなかったことも、自分を作る糧になる、ということでしょう。

変えることのできない「これまで」は、「これから」の生き方次第で、その価値が大きく変わります。

みなさんの「これから」にたくさんのお幸せを願っています。

進路指導部 一同

「これまでが、これからを決めるのではない。これからが、これまでを決めるのだ。」